日本基督教団
東中国教区ニュース
NEWS

東中国教区
教区ニュース誌委員会
〒七一〇-〇〇五六
倉敷市鶴形一-五-一五
倉敷キリスト会館内
TEL (〇八六)四二一-二七八〇

目次

メッセージ「光明園家族教会とクリスマス」……1
東中国教区伝道協議会報告……2
教師と信徒の合同研修会……3
ヨルダン会研修会「『協働する教会』に向けて」……4
SH防止小委員会より・ご案内……5
青年交流ワークキャンプ……6
教会紹介「在日大韓基督教会 水島教会」……7
「こんにちは」のお部屋・編集後記……8

メッセージ

「光明園家族教会とクリスマス」

光明園家族教会長老　難波幸矢

私が光明園家族教会に岡山市内の教会から籍を移したのは一九九二～三年頃でした。礼拝の出席者は会堂いっぱいでした。お座布団ですがそれぞれ指定席のように座る所が決まっていて、窓際のあそこには神路さんが寄りかかって、後ろには背もたれのようにして田宮さんがと、今でもしっかり思い出します。

牧師は津島久雄先生でした。この方の事ですから、クリスマスには療養所で働いている介護員さんや看護婦さんたちに「子どもを連れておいで。ケーキをあげるから」と仰っていて、イブ礼拝には日頃は見ない子どもたちもいっぱい集まっていました。加えて関西学院大学の学生たちも必ず来てくれていたので、イブ礼拝が終わると早速園内のキャロリングです。長屋式の各舎を蛇行しながら教会員が何号に住まっているかを心得ている梅本さんが学生を誘導、静かにぴたりと止まって、おもむろに歌い始めると、カーテンが開かれて歌い終わるまで聞いて下さり、最後に「メリー・クリスマス」と言葉を交わして次の部屋へと。関学の学生たちは教会に帰ってからは夜通しおしゃべりするのでした。

そんなことも止めてもう十数年経つでしょうか。教会員じゃない人から「うるさい」と言われたとか、教会員もせっかく窓の外まで来て歌ってくれていても、耳が遠くなってカーテンも開けない状態となり、食事が終わったら早々と横になるという年齢になりました。

十三の国立療養所内教会から、終焉を知らせる便りが届くようになってきました。「教会まで行けなくなったので、〇〇姉妹の部屋で数名で祈っています」とか、「牧師に来て頂くのは第1週のみにしました」とかです。おそらく週報が作れているのは三～四教会ではないでしょうか。ハンセン病の療養所内教会ですから終焉に向かうのは当然ですがこれが現状です。

そのような中で、教区内の方々をはじめ清教学園、大阪女学院、愛真高校、在日大韓基督教会関西聖歌隊連合の方々が来続けて下さることの何と勿体ない事か。関学の学生が先日は坂本九の「明日がある」の替え歌で教会員を励ましてくれました。私たちは彼らに「あなたの若い日にあなたの創り主を覚えよ」という言葉を祈って伝えている状況です。

東中国教区伝道協議会報告

「『教会強化特別資金運用規定改定案』について」

伝道委員会　田　中　英　也
（倉吉上井教会）

日　時：二〇一九年十一月十六日（土）
午後一時～四時
会　場：岡山教会
参加者：合計三六名
鳥取県〈東部〉三名〈西部〉三名、
岡山県〈北部〉四名〈東部〉十四名
〈中部〉十名〈西部〉二名。

・開会礼拝

説教者　田中寛也牧師（津山城西教会）

説教題「一つの体、多くの部分」
聖書「第一コリント十二章十二～二六節」

（要旨）使徒パウロは、教会をキリストの体として、聖徒たちの賜物を組み合わせ建て上げよ、と勧めます。一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶのです。困難な状況にある教会への配慮は、教区全体にとって欠かすことのできない部分であるとの共通理解をもち、協働して支え合いましょう。

・「運用規程デザインの経緯について」

柴田彰牧師（倉吉教会）

本年度教区定期総会の第十一号議案「東中国教区の宣教強化に関する件」において、常置委員会は「教会強化特別資金運用規程デザイン」を提案し可決された。また、このデザインに沿って、次年度の教区定期総会において「教会強化特別資金運用規定改定案」を提出することが可決された。第二回常置委員会において、改定案を作るために五人の委員が選出され「作業部会」が設置された。二回の作業部会の協議を経て原案がまとめられ、この伝道協議会に提案された。今後、第三回作業部会を経て、十二月の第三回常置委員会に提案される。

・「『教会強化特別資金運用規定改定案』について」

延藤好英牧師（和気・三石教会）

現行の「教会強化特別資金運用規定」と「運用規程デザイン」と「運用規程作成作業部提案」が三列に表示された資料が配布され、説明がなされた。

（1．趣旨）と（4．執行）は「運用規程デザイン」に追加、（2．原資）「運用規程デザイン」と同じ、（3．支援対策事業）は「運用規程デザイン」１～６の具体案が示された。

〈主な意見と回答〉①代務・兼務の限定をしない。②アルバイトを排除しない。③年齢制限をしない。④みんなで話し合える土壌作りをしてほしい。⑤教会の活動を日曜日に限らず、平日にも広げる。⑥高齢となり教会に行きたくても行けない信徒を支援する。⑦隠退牧師にお願いして、牧師の休暇を取りやすくする。⑧地区の活動を盛り上げるために、地区宣教プランを各地区で積極的に立て、教区が支援してほしい。⑨「整備」の範囲に新築も対象となる。⑩「地区の協議を経て」とは、地区委員会等のこと。

伝道協議会の様子

教師と信徒の合同研修会

「宣教の要としての葬儀」

久世教会　武藤　勇

始めより終わりまで興味津々。今の日本の教会の宣教の鍵を解かれたような気がしました。今に始まった問題ではないのですが、人の死の抱える問題に自分の教会は向き合ってきただろうか。死後の不安、葬式の問題、お墓の問題、経済的な問題、残される家族の理解、葬式は教会か個人か、死と葬儀は違うのではないか、教会墓地はあるか、安心して教会生活が送れるか。今教会に出来ること、必要なこととして、①一人称の死、②二人称の死、③三人称の死の中で、一番大切な問題と思えたのが「二人称の死」に関するグリーフワークでした。

講師の中道基夫師

患者本人、また家族とどう関わればいいの、悲しんでいる人の慰めはどうするの、最愛の人を失って悲しみのどん底にいる人に教会はどう寄り添うことが出来るのだろうか。家族本人が祈ってほしいと思っている時、間に合っているだろうか。逆に、静かに過ごしたいと思っている時に教会員がお邪魔していないだろうか。そこの空気を読み、取りはからえるのが高齢者信徒の経験が生かされる時でしょう。これから求められる教会の宣教活動は、葬儀から始まる牧師と信徒の共同牧会だと思わされました。

研修会初日の礼拝

「二日目　希望に生きる教会」

境港教会　牧師　中道祐太

二日目には十五名の教師が集まり、「宣教する教会 ― その根拠の喪失と再発見」と題して講師である中道基夫教授（関西学院大学神学部学部長）に講演していただきました。その中で講師は自身の牧会経験をふまえつつ「今日の教会は宣教に対して自信を失っているところがあるのではないか」という問いかけをされ、参加者は驚かさせられたり、共感させられるところがありました。

また講師は歴史を通して時代によって「宣教の担い手」「教会の立場」「宣教の対象」「宣教の目的」「評価するポイント」「他宗教との関係」というものがそれぞれ変化してきたことを話されました。けれども、だからといってその根幹にある福音が変わったというわけでも、福音の力が弱まったわけでもないと福音の力強さを語られました。

変革期の中にいる私たちは福音の持つ力を改めて確認し、これからを生きる教会としての宣教を捉え直して希望と確信の内に歩んでいくことが必要であるように感じられました。

ヨルダン会研修会

「『協働する教会』に向けて」

倉敷教会　佐伯　元

昨年に引き続き、岡山県中部地区ではヨルダン会主催の研修会を開催しました。九月二二日（日）午後、中部地区の六教会から十八名の信徒が玉野スポーツ・センターに集いました。この研修会は宣教強化の為、「協働する教会」をテーマに、学びと話し合いを通して、将来に向かって具体的且つ持続的な行動に繋げようとするものです。研修会は、以下の三部構成で行われました。

第三部の早天礼拝

第一部：九月二二日（日）十五時～十七時
第二部：九月二二日（日）十八時～二一時
第三部：九月二三日（月）八時～九時三〇分

第一部は、中井牧師（倉敷教会）の基調講演（「協働する教会②～神のまなざしからは尊い群れ～」）の後、講演を受けての質疑応答と協働の進め方について話し合いを行いました。第二部は、ヨルダン会（夜談会）らしい和やかな雰囲気の中で、悩みを抱える教会とどう向き合いか等を話し合いました。第三部は、林伝道師（倉敷教会）の奨励による早天礼拝に引き続き、「終わりの会」として、今回の評価とこれを踏まえて今後の教会間の協働をどう進めるかについて話し合いました。

研修会で出たいくつかの意見を以下に記します。

・各教会の生の悩みの声を聞くことができて良かった／・参加者の認識が深まったが、もっと多くの人の意見を聞くべきではないか／・いい意見が出たが、これを実行に繋げる組織も必要ではないか／・中部地区教会間の強い絆を「協働」に生かそう／・今までの常識にとらわれない礼拝の守り方も考えるべきではないか／・協働には様々な形がある（一方的に助けるということではない等）。

中部地区の教会は課題を共有しつつ、お互いの持ち味を出しあい協働する共同体を目指して進んで行きます。

ヨルダン会の勇壮

交わりのとき

SH防止小委員会より

「ハラスメントに向き合う　～信仰の試金石となしうるか～」

SH防止小委員会　金子直子

〝神さまから頂いた一回限りの人生をあなたはどのように人と関わって生きたいですか?〟・・今年9月倉敷教会で開催した学習会のタイトルです。メディアを介して昨今多くの事例を見聞きするように、ハラスメントについて知ることの重要性から逃れ得る組織はもはやありません。

委員会としても、十年間の相談窓口を通して見つめ続けたキリスト教会の現状から、ハラスメント学習会の必要性は今や急務と感じています。その第一の目的は、問題が起こった時の〝傍観者〟を作らないことにあります。孤立無援化していくハラスメント被害者にとって、傍観者に囲まれることは二次的被害ともなることを忘れてはならないのです。

残念ながら教会は、構造的に力関係を生じやすい集団の一つだと言われます。様々な批判にも門戸を開き、教会の姿を問い直し続けることは私たちの責務ではないでしょうか。

二〇二〇年以降も学習会を企画します。開催に向けて、来春にはそれぞれの教会にアンケートをお届けする予定です。委員会への相談やお声かけを待っています。「当たり前」や「思い込み」を絶対化することへの捉え直しを絶えず迫っておられるイエス・キリストに倣い、ハラスメント防止活動はこれからも着実な歩みを続けます。

ご案内

「性差別問題連絡会全国会議 in 倉敷」

性差別問題連絡会は、三十一年前教団に設置された性差別問題特別委員会を継承する、教団で唯一の性差別問題ネットワークです。毎年一月、全国教区の性差別やハラスメント防止委員会等が集い、喫緊の課題について協議し学び合います。二〇二〇年開催会場は倉敷教会。担当は東中国と四国の合同実行委員会です。「変わっていくことこそ人間の営み」という言葉に出会った発題者が、経験を通して性差別と向き合い問題提起します。〝変えられること〟をめざし、声を出し合い聴き合う二日間です。どなたでもご参加ください。

テーマ『変わっていくことこそ　～性差別“主義”を問い続ける～』

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

日　時：2020年1月26日（日）17:30　受付開始
　　　　～27日（月）15:00　終了

会　場：日本基督教団　倉敷教会

会　費：全日参加（宿泊有）　10,000円
　　　　部分参加　1日目　2,000円
　　　　　　　　　2日間（宿泊無）　3,000円

宿泊先：ホテル・アルファーワン倉敷

申込先：土井しのぶ
　　　　E-mail：ginmebaru2@mx1.kct.ne.jp

申込〆切：2019年12月25日（水）

※詳細問合先　金子 直子
　　　　　　　TEL.090-6832-6161

青年交流ワークキャンプ

「青年交流ワークキャンプ」

湖山教会　牧師　木谷　実

十月二一日～二二日にかけて青年交流ワークキャンプが行われました。今年度の会場は「まびくら」です。ここは二〇一八年の西日本豪雨による水害の被害を受けた真備地区にあり、「真備に暮らしの温もりを」という願いのもとに設立されました。教区を越えた日本基督教団の支援、そして岡キ災の活動によって守られています。

災害を学ぶ

ワークキャンプの一日目にはまびくらの活動についての話を聞き、交流のバーベキューが行われました。特に専従スタッフの方による報告は真に迫るものがあり言葉に出来ないような想いを持ちました。二日目は草刈りと屋内清掃のワークを行わせていただきました。

ワークキャンプが計画されましたのは、教区としてまびくらに集う機会を持ちたかったからです。私は鳥取にいますので、まびくらでは百六十㎞ほど離れています。ですがこの機会があったからこそ、まびくらの活動を知ることが適いました。そして何よりも、実際に訪れることができました。以前から総会の報告や会報などを通して、まびくらの活動を知ってはいましたが、現地で話を聞くことができたのは今回が初めてです。その場所に身を置いて、その場所に生きる人の話を聞かなければ、分からないことがあることを思わされました。各地で起こる災害によってそれぞれの記憶は薄れていくかと思いますが、まびくらが東中国教区にあることを忘れずに祈り合っていければと思います。

まびくらの床掃除

駐車場の草刈り

教会紹介

・在日大韓基督教会　水島教会・

臨時堂会長　韓　澤　柱

1996 年の会堂

一九四五年八月の終戦直前、水島には三菱重工業（傘下には三菱飛行機）があり、大量の社員用社宅建設を始めたが終戦の為に社員が入居出来ず、一般の日本人や在日が安く払い下げをうけました。在日は他地方に居る親類や友人に声をかけてここに在日の一大拠点が出来ましたが、三家族のキリスト者と岡山市の二家族で礼拝を始め、無牧ながらクリスマスには二十八人の礼拝参加でその大部分は小学校生でした。一九五七年頃の在日は企業過疎地の水島で、市の失業対策事業の低い賃金が主な収入で、子供が義務教育を終えると一家で京阪神地方に転居するようになり、水島教会では岡山市の信徒が伝道所を設けて去ったこともあり、高校生中心の小さな群れとなりました。

一九六四年七月には在日大韓基督教会総会の後押しがあり、宗教法人設立申請人の権限証明書を受けて一九六八年五月に岡山県に宗教法人申請をし、認証（認証番号第三七九三号）されましたが、八人の役員の多くは高校生でした。教会財政を担う信徒が少なく、無牧の状態が常態化する中で講道師として赴任する人もいましたが牧師になる直前には大きい教会に移動するのが多々でした。時には七十歳で隠退した牧師を短期間迎えたこともありました。一方、高校を卒業した人が水島で就職するのは大変困難で、都会に就職し都会の在日教会の中心となり、互いに祈りあっているのが実情です。

一九九六年には礼拝堂が老朽化して屋根が割れて雨漏りが激しくなり解体し、旧民団倉敷支部を借りて礼拝し、さらに倉敷市明神町一ー六〇に出来た新民団倉敷支部に移転し月に一度礼拝し、礼拝のない日には付近の日本の教会に出席します。神の計画を推し量ることは大変困難で、ただ置かれているところで御言葉を伝え、主のご来臨の時までこの世を見張り続けたいと祈っています。「水島教会の門は閉めるなよ」という元教会学校ＯＢの叱責がなによりの感謝です。

2019 年 10 月 5 日の推戴式

「こんにちは」のお部屋

「教誨師です」

鳥取新生教会牧師　山田忠義

私は鳥取刑務所の教誨師をさせていただいています。鳥取刑務所に伺って、受刑者の方と、一対一で面談をしています。お一人が一時間ほどで行います。いわゆる個人教誨というものです。教区の皆様方にはすでにご存知のように、教誨師の「かい」とは「戒」ではなく、「誨」と書きます。それは、「おしえみちびく」という意味合いです。この趣意を私なりに、しっかり心得たいと思っています。

まず受刑者の方とお会いして、私はじっくりお話を聞くようにしています。こちらから過去の行状、ましてや刑の内容、そしてプライベートのことを、聞き出そうとすることはいたしません。適切にうなずき、あいづちを打ち、ときに問を発して、そのお気持ちをくつろげるためにも勉めているつもりです。ある意味で、親しい友のように言葉を交わしたいと思っています。

私の方針として、その方を責めるようなことはしません。ましてその過去からの罪、それの非を鳴らすことはいたしません。キリスト者としての姿勢をつらぬいて、交流しているつもりです。そして機をとらえて、福音を私なりに素朴にお伝えしているところです。

結びに教区の皆様方に対し、お祈りとご支援とを改めて感謝いたします。

編集後記

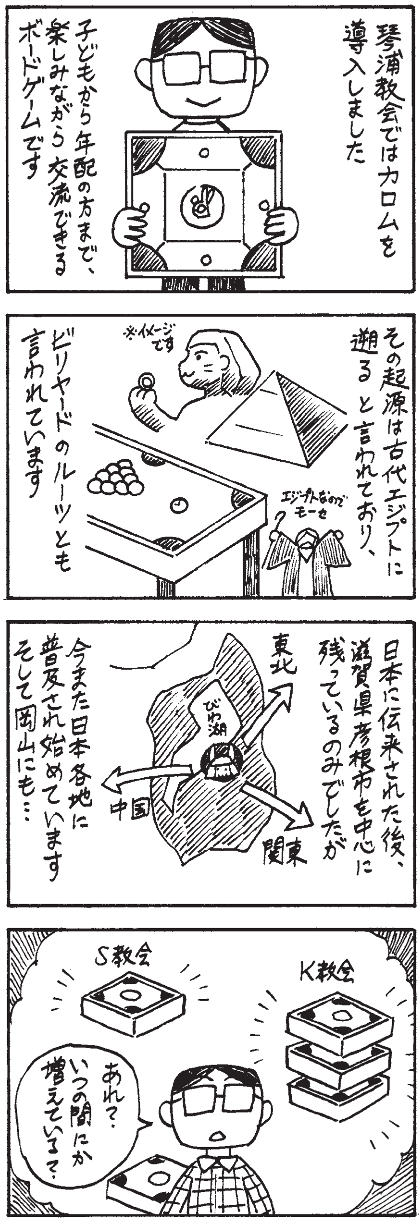
クリスマスおめでとうございます。私たちの生きる源御子イエスの誕生を心からお祝いしましょう。

今回初めて教区ニュース誌委員会に出席させていただきました。秋にある行事に思いを寄せながら教区の皆さんに関心を持ってもらいたい記事をお届けできたらとの願いを込めました。特に「まびくら」において開催された「青年交流ワークキャンプ」報告は特筆に値します。「まびくら」の運営は教区と岡山県内の福音派のグループとYMCAの三者共同によるもので画期的な動きです。水害は辛い出来事でしたが、神様は新しい宣教の道を示して下さいました。

今までの編集委員の方々の奉仕に感謝しつつ私自身も期待に応えられるようがんばらなければとの思いを持ちました。よろしくお願いいたします。

（米良）

遊びを通して広がる関係



★ハラスメント相談窓口★

毎月第三水曜日　午前九時～午後九時

電話番号　〇九〇－一三三〇－八七三〇